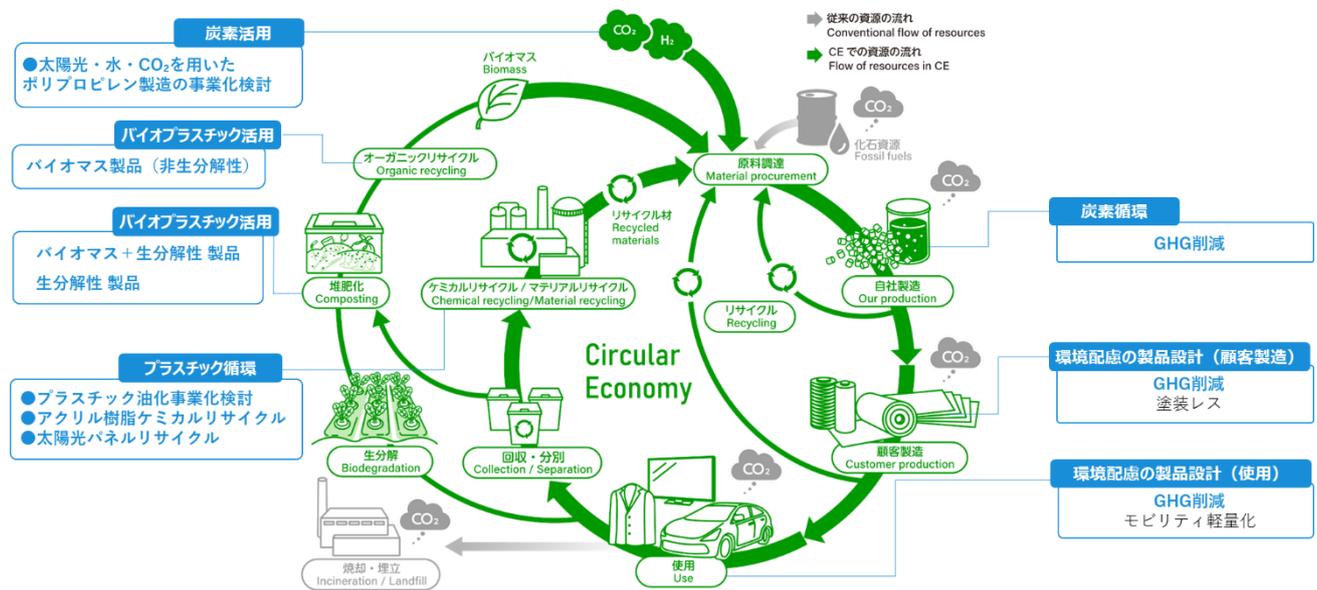


「三菱ケミカルグループのサーキュラーエコノミーへの取り組み」

気候変動をはじめとする多くの解決すべき社会課題があり、化学の技術や素材はそれら課題を解決する大きな可能性を有しています。三菱ケミカルグループでは、“人・社会・地球の心地よさが続くこと”を“KAITEKI”と定義し、サステナビリティ担当部署と事業・研究開発など社内組織が一体となり、サプライチェーンや業界団体とも連携しながら、“KAITEKI 実現”に向けて取り組んでいます。本講演では、当社グループの持続可能な循環社会の構築に向けた取り組みとしてプラスチックの油化事業化検討などのケミカルリサイクルの取り組みやバイオプラスチック製品、自治体と連携したリサイクルの取り組み事例などをご紹介します。



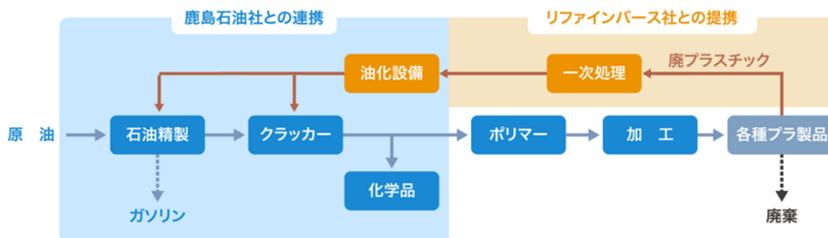
三菱ケミカルグループが目指すプラスチック循環の全体像と取り組みの例

ケミカルリサイクルに向けた取り組み

- ・ENEOS株式会社と共同で、使用済みプラの油化設備を新設
- ・原料となる使用済みプラの確保のため、リファインバース株式会社と提携

油化によるリサイクルの利点

- ・新品同等品質でのリサイクルが可能
- ・マテリアルリサイクルよりも幅広い廃プラを使用可能



建設中プラント外観

プラスチック油化事業化検討の概要